

伊丹福音ルーテル教会 四旬節第五主日礼拝のしおり

2022年4月3日

前奏

招きのことば：詩編 126 編

【都に上る歌】主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いてわたしたちは夢を見ている人のようになった。| そのときには、わたしたちの口に笑いが舌に喜びの歌が満ちるであろう。そのときには、国々も言うであろう「主はこの人々に、大きな業を成し遂げられた」と。主よ、わたしたちのために大きな業を成し遂げてください。わたしたちは喜び祝うでしょう。主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように わたしたちの捕われ人を連れ帰ってください。涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。| 種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は 束ねた穂を背負い 喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様はわたしたちの救いのための御苦しみを最優先されました。イエス様は自分の力では何をもっても救われることのできない私たちの罪を知っておられます。その私たちが救われるためには、イエス様はご自分の上に降りかかるどんな苦しみをもうとうことはありませんでした。この愛を知った私たちはこみ上げる感謝をもってイエス様にお仕えします。そして隣人の幸せと一緒に作っていくために、どんな苦勞をしてでも自分を磨き、人と人の間に平和をつくりだして歩みます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：フィリピ 3章 4b-14節

だれかほかに、肉に頼れると思う人がいるなら、わたしはなおさらのことです。わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 12章 1-8節

民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆過越祭の六日前に、イエスはベタニアに行かれた。そこには、イエスが死者の中からよみがえ

らせたラザロがいた。イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食事の席に着いた人々の中にいた。そのとき、マリアが純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ持って来て、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心に掛けていたからではない。彼は盗人であって、金入れを預かっていながら、その中身をごまかしていたからである。イエスは言われた。「この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない。」

讚美歌 166 番

- 1 イエス君は いと麗し 天地(あめつち)の主なる 神の御子、人の子を 何にかは たとえん
- 2 春の朝 露ににおう 花より美し 秋の夜 空に澄む 月より さやけし
- 3 夏の夕 青葉わたる 風よりかぐわし 冬の日 くに 雪よりきよけし
- 4 イエス君は いと麗し あめつちの主こそ わが栄え わがかむり わが喜びなれ アーメン

説教：「香油の香りでいっぱいになった」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

皆さんにはお世話になった恩人といえる人はいらっしゃるでしょうか。人生の大切なとき、とてもよくしてくださった方はおられますか。そのような方々に、その感謝してもしきれない思いをどのようにあらわされるでしょうか。特にその方がみなさんを助けるために、申し訳ないことに、とても大きな犠牲を払われたとしたら、おそらく一生感謝の思いが続くことでしょうね。

さて、イエス様が親しくなされていたマリヤとマルタ、そして弟のラザロという兄弟がベタニアという村に住んでいました。ラザロが病気で死んでしまったとき、イエス様はいのちを狙われていたのに家のお墓まで来てくださって、よみがえらせてくださいました。このためマルタ、マリヤ、そしてラザロは感謝をしていました。さて、イエス様は最後の一週間を過ごすエルサレムにロバの子にのって入城されましたが、その前日の夕食をベタニアでお取りになりました。この三人の兄弟もイエス様の夕食の場にいたのです。それぞれにイエス様への感謝を表しました。マルタは夕食の給仕をしました。ラザロはイエス様と共に食事の席につきました。マリヤはイエス様の足元で、しもべのする働きをしました。それぞれイエス様への感謝を表しました。

イエス様がラザロをよみがえらせたことで、イエス様を信じる人がとても多くなりました。そしてそれによってイエス様が十字架につけられるようになりました。振り返ってみましょう。

当時すでに民の指導者たちは、神様を冒瀆する罪でイエス様を捕えたいと言っていましたので、人々はイエス様を警戒していました。イエス様は公けに神様のことを父とよんで、ご自分を神様と等しいものとしておられたのです。ラザロが病気で死にそうになったとき、マルタとマリヤは人をやってイエス様に来てくださるようお願いしましたが、そのときイエス様は「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のため、神の御子、すなわちご自分がこれによって栄光を受けるのである」といわれました。実はイエス様がお働きを始められたころに、ご自分は父なる神様から遣わされて世に来たので、父なる神様とおなじように、ご自分がいのちを与えたいと思う者にいのちを与える、と言っておられました(5:21)。天地のつくり主ですべてのいのちをご支配なさる父なる神様とご自分を重ねてお語りになっていました。

数日後危険を承知でベタニアへと出かける前にイエス様は弟子たちに「ラザロは死んだ。わたしがその場に居合わせなかったのはあなたがたにとってよかった。あなたがたが信じるようになるためです。」と言われました。ラザロを死者のなかからよみがえらせることで、イエス様が神の御子救い主であることが人々に明らかになりました。またそれによってイエス様を遣わした父なる神様が栄光を受けることになったのです。マルタとマリヤはイエス様を信じて、イエス様の到着を今か今かと待っていましたがついにラザロは死んでしまいました。これまで弟子たちも人々も、イエス様が病気の人を癒したり、盲人の目をあけるのを見ていましたが、まさか死んでしまったらもうイエス様にできることはないとおぼろげに考えていました。彼らはもちろんイエス様を信じていたのですが、彼らの信仰はそこまでだったのです。私たちがいいことがあったら神様は生きておられる！と喜びます。わるいことがあると途中までは必死になってお願いしますが、ある一線を越えますと神様なんかいるものか、と思ってしまいます。

イエス様がラザロを生き返らせてくださったことで、マルタとマリヤは兄弟の死と言う悲しみと絶望の極みを経験する中で、いのちを支配してくださるイエス様を信じることができるようになりました。イエス様はマリヤに案内されてラザロの葬られている横穴式のお墓につくと、ついてきた人々に墓をふさいでいた大きな石を取り除けるように命じられ、「父なる神様、あなたがわたしをお遣わしになったことをここに人々が信じるため、願いを聞いてください」と祈ってから、死んだラザロに向かって「出てきなさい」と大声で叫びました。するとどうでしょう。ラザロは手足を布で巻かれたまま生き返って出てきたのです。イエス様が死んでいたラザロをよみがえらせてくださいました。マルタとマリヤやそこにいた弟子たち、また、まわりにいたすべての人に、このイエス様のみわざは決定的な影響を与えました。ほんとうに神様から遣わされた救い主だとわかりました。指導者たちを恐れてイエス様を信じなかった多くの人々が、イエス様を父なる神様から遣わされたまことの救い主であることを信じました。

イエス様が救い主だ、と信じる信仰をいただいて、マルタとマリヤ、そしてラザロはどれほど感謝をしても感謝しきれない思いでした。弟子もそこにいた人々も、多くの人にイエス様の栄光を告げました。指導者たちを恐れずにイエス様を信じる人々がどんどん増えていきました。

一方、民の指導者たちは危機感をつのらせました。なんの危機感でしょうか。イエス様を神の御子と信じない彼らにとっては、多くの人イエス様を信じることは深刻でスケールの大きな国家的危機的を意味しました。人々にとって救い主は、ローマ帝国の支配から民を解放する王、輝かしいイスラエルの国を立てる王でした。民がみな熱狂的にイエス様に従うとどうなるでしょうか。ローマ皇帝を刺激して、ローマ帝国を守るために軍隊を送り、エルサレムの神殿を破壊してイスラエルの民を滅ぼすでしょう。民の指導者たちは必死でした。国会を開き国民をローマから守る議論を重ね、イエス様を殺すしかない、と決めました。大変な決定ですね。

このように、人々はイエス様に王様になるように期待し、民の指導者もイエス様を国家的危機と誤解しました。イエス様ご自身は時代と民族に限定された当時のイスラエルの民を解放する救い主ではありません。むしろすべての時代の人類すべてを神様のみもとに帰ることができるように、罪と死私たちが受けるべき罪の正しい罰を身代わりに受けてくださり、神の子としてくださいました。私たちは罪を赦されて、この世のいのちがおわってもとこしえに続く、永遠のいのちをいただきます。イエス様が十字架で死んでくださったのは、私たちのためでした。

ですから、私たちがイエス様にあふれる感謝をします。イエス様は罪をすっかり赦して下さり、古い自分は死んで新しいイエス様にあるいのちを生きるようにしてくださいました。マルタはイエス様に夕食の給仕をし、ラザロはイエス様と一緒に食卓につき、マリヤは大切にしまっていた値打ちのある香油を持ってきて、イエス様の足元にひざまづいて足に塗りました。また束ねていた髪をほどいてその髪でイエス様の足をめぐいました。神様への感謝、イエス様への感謝のあらわれでした。

マリヤは第一に、自ら進んで、第二によいタイミングで、第三にとっておきの贈り物をイエス様にささげました。マリヤの用いた香油は今のお金で三百万円以上の値打ちがありました。兄弟のラザロが死んだときにすら使わなかった値打ちの高い香油を、イエス様に惜しみなくささげ、その香りは部屋いっぱいひろがりました。また、マリヤそのときでしかできないささげものをしました。イエス様は次の日からエルサレムに入られます。その日だけベタニアに来られました。マリヤはそのときを逃しませんでした。そして、マリヤのささげものは残り物ではありませんでした。自分にはもっとよいものをとっておいて、イエス様に残り物をささげるという気持ちはありませんでした。一番よいものをとっておいてイエス様におささげしました。マリヤは自分から、今というときをよく見ながら、とっておきのささげものをイエス様にお送りしました。これがマリヤの心です。

私たちが神様をほめたたえて、人々を大切に歩む生きがいのある生涯が与えられました。過去の後悔と、現在の自己嫌悪と、将来のあきらめに縛られていた私たちは、イエス様によって神様の子どもとされ、生かされていることを感謝し、与えられている立場での様々な使命に心を込めて向き合うことができるようにされました。手に負えない試練に会って立てなくなっても、ラザロの復活のときのように絶望でおわりません。私たちの思いを超えた神様の栄光を

見ると信じるように鍛えていただきます。死を超えてイエス様とともに永遠を過ごすいのちを得ています。

マリヤはイエス様へのお礼として、最高の感謝の気持ちをあらわしました。そんな高価な香油を使うなんてもったいない、とあとでイエス様を裏切ったユダは言いました。しかしイエス様は翌日からエルサレムで苦しみを受け、十字架で死ぬとご存じでした。当時は死体の臭いを消すために香油を塗りましたが、マリヤの香油はイエス様の葬りの日に備える信仰のこもったささげものだと喜んでくださり、ときをとらえてマリヤがささげた香油の意味を皆に教えました。イエス様の死を私のためと受けとめ感謝をもって歩む幸せが、その後も語り継がれてきました。

私たちもイエス様の苦しみを覚え、私のために十字架にかかってくださったことを感謝して、みずから進んで、このとき、というときを逃さずに、自分らしいとっておきの最もよいものをおささげしましょう。今週も神様があなたを置いてくださるところで精いっぱい、神様への感謝をあらわしましょう。賛美しましょう。祈りましょう。人々に喜びを伝えましょう。人々の幸せを共につくっていきましょう。

イエスは言われた。「この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。」ヨハネ 12:7

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』とされました。**アーメン**だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。**アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあつて我らは歩む。 ※

讃美歌 136 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 血しおしたたる 主のみかしら、とげにさされし 主のみかしら、
悩みと恥に やつれし主を、われはかしこみ きみと仰ぐ
- 2 主の苦しみは 我がためなり、我は死ぬべき 罪びとなり、
かかるわが身に かわりましし 主のみこころは いとかしこし
- 3 なつかしき主よ、はかり知れぬ、十字架の愛に いかに応えん、
この身とたまを とこしえまで わが主のものと なさせたまえ
- 4 主よ、主のもとに かえる日まで 十字架のかげに 立たせたまえ、
み顔を仰ぎ み手によらば、いまわの息も 安けくあらん **アーメン**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏